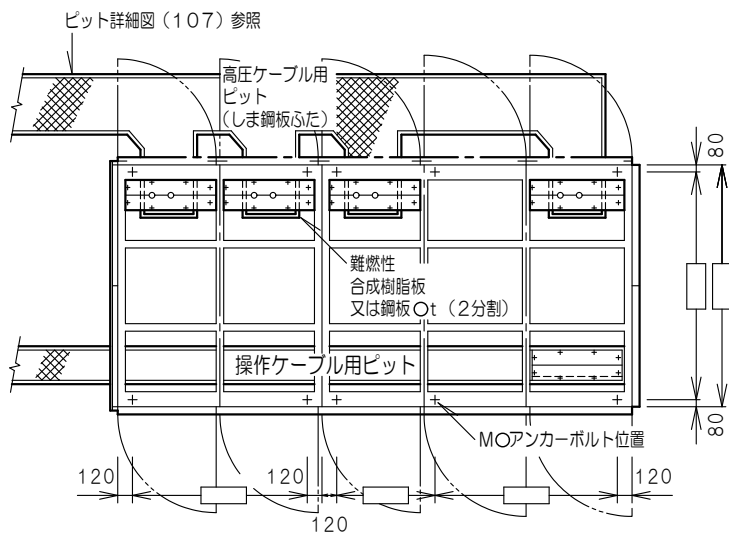


受変電設備

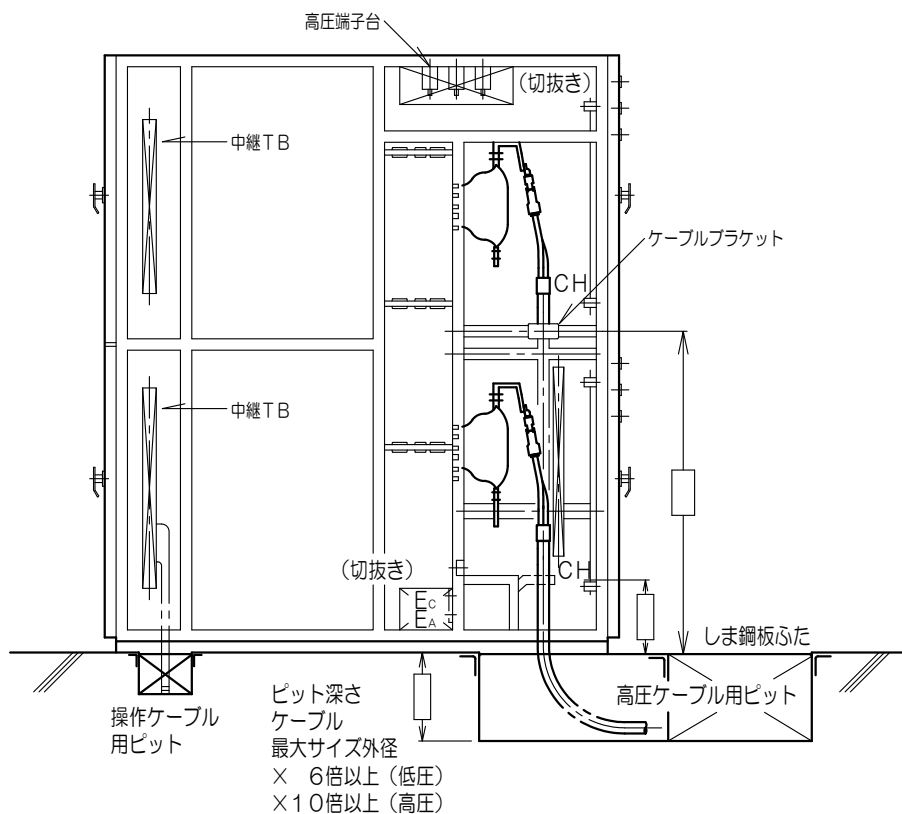
101

屋内キュービクル配線

(単位 mm)



平面取付図

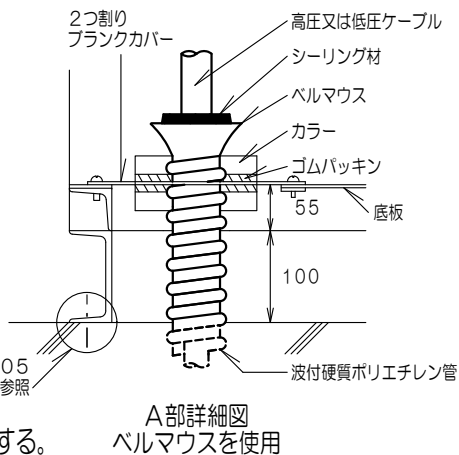
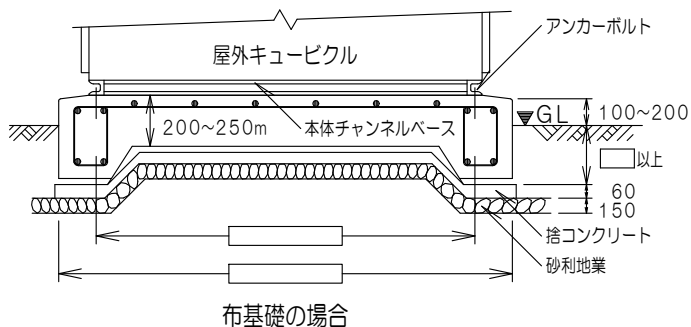
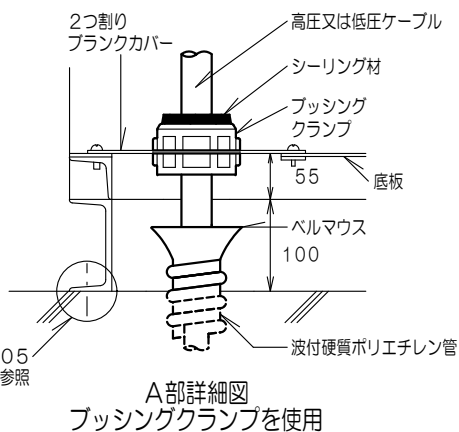
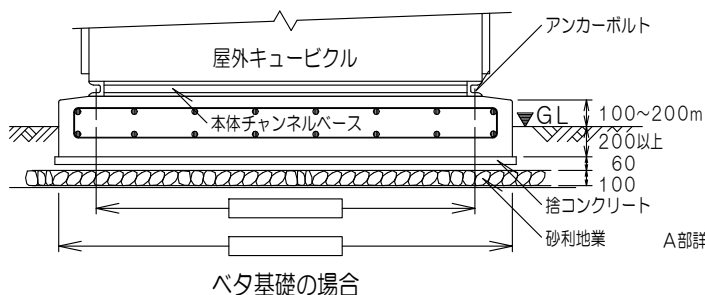
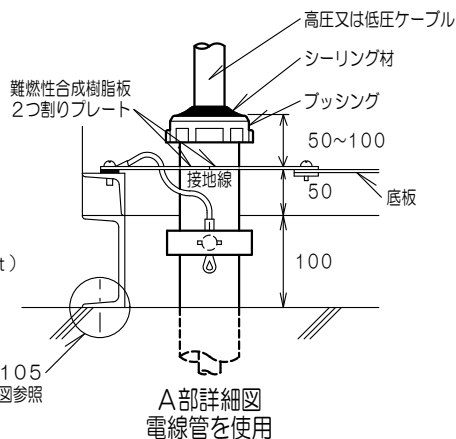
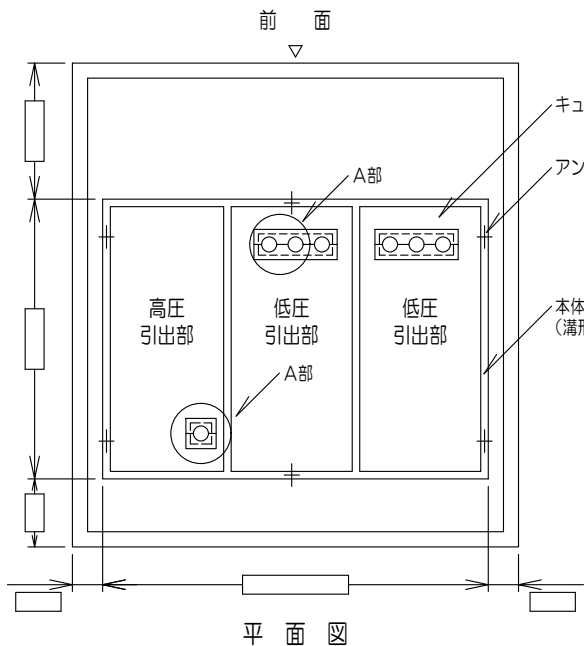


盤内ケーブル立上図

注意事項

1. アンカーボルトの種類、径、打設本数等は、設計者の耐震条件をもとに耐震計算書を作成し選定する。
2. アンカーボルトの種類、径、深さ等記入する。
3. ケーブル立上り箇所は、分割型底板をケーブルサイズに切り込み、通線後シーリング材等を充填する。
4. 記入寸法は、一例を示す。

(単位 mm)



注意事項

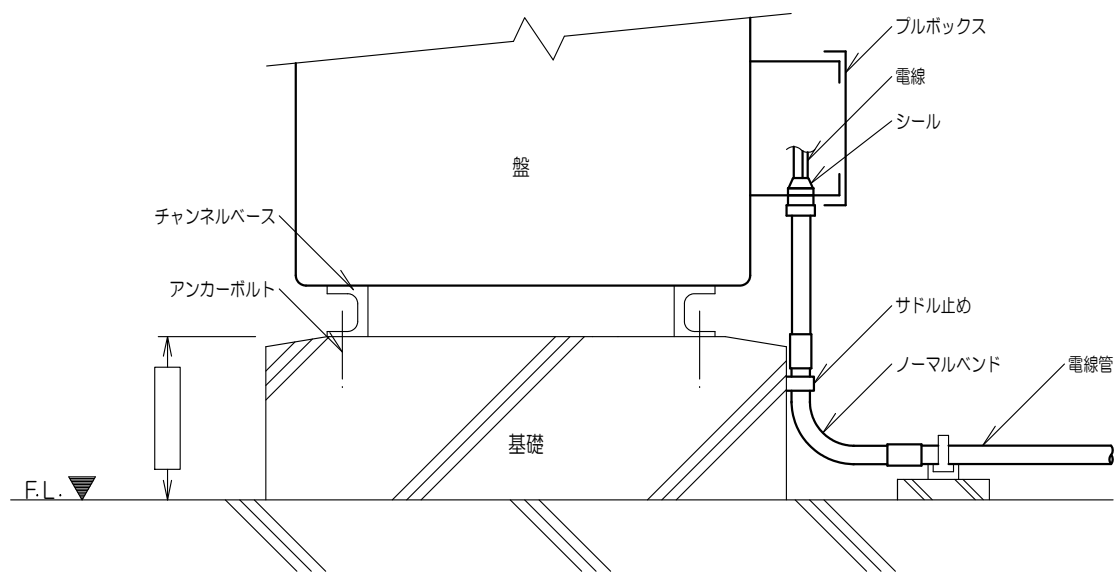
1. 軟弱地盤 (地耐力 $\square t/m^2$ 以下) 及び盛土の場合は建築担当者と協議する。
2. 基礎の上面に水溜りができないように勾配をとる。
3. 基礎の埋設深さは \square 以上とし、寒冷地の場合は凍結深度より深くする。
4. 鉄筋の種類、ピッチ等は、建築担当者と協議する。
5. キュービクル内に雨水の吹上げ、虫・小動物の侵入を防止するため底板を設ける。
6. 雨による土のはね返りの防止及び雑草の生育を抑えるため、基礎の周囲は砂利を敷くことが望ましい。
7. 記入寸法は、一例を示す。

盤

類

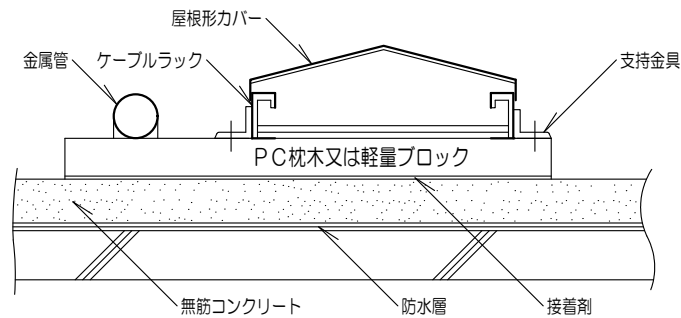
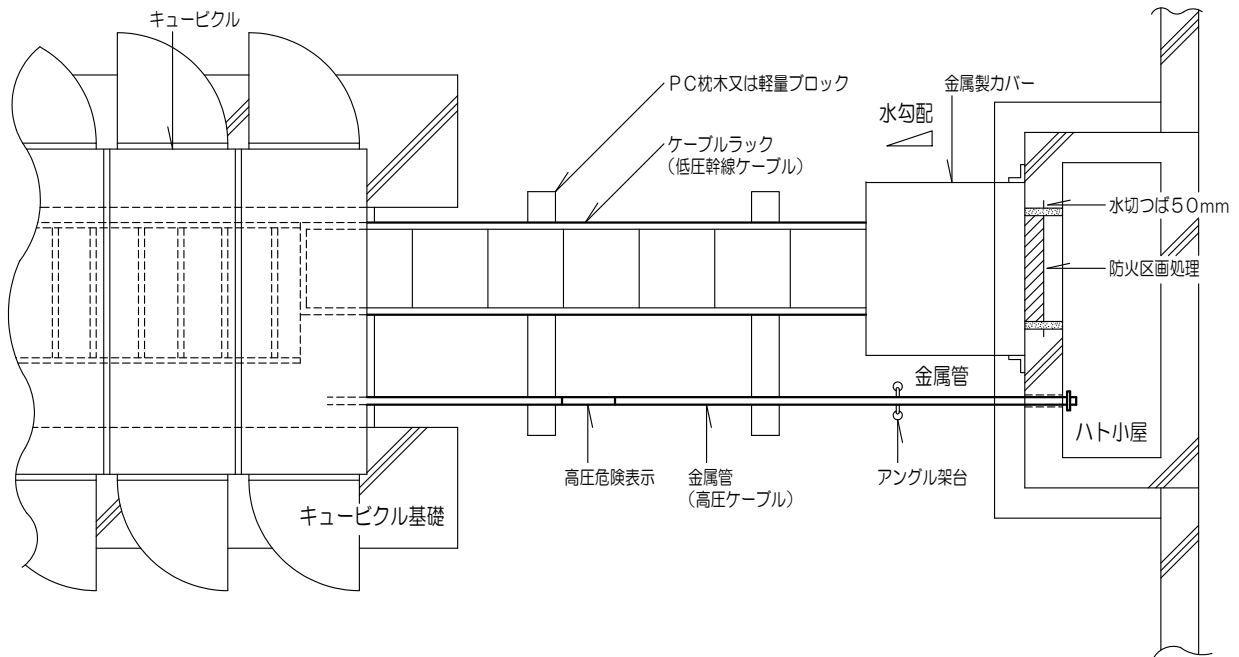
402

自立盤 - (2)
(電線管立上げの場合)



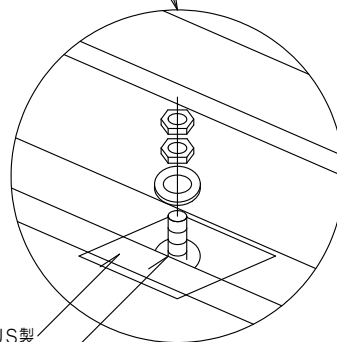
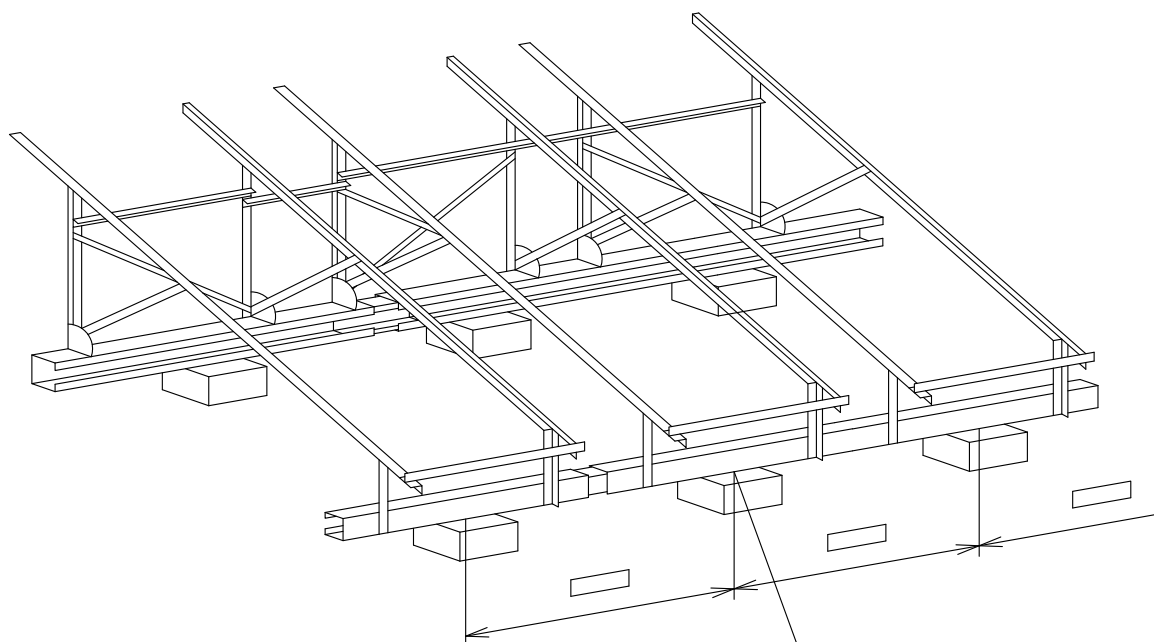
注意事項

1. 基礎の高さは埋込及び箱抜きアンカーの必要埋込深さを考慮する。
2. スラブの強度確認のため、盤及び基礎の重量、位置を明示し構造担当者の承認を得る。
3. アンカーボルト等屋外に露出する金属部分は防錆処理を行う。



注意事項

1. ケーブルラックの基礎は、PC枕木又は軽量ブロックと溶融亜鉛めっき仕上げの山形鋼とする。
屋上仕上げが露出防水の場合は、ゴムシートを設ける。
2. 高圧ケーブルと低圧ケーブルは別にする。
3. キュービクル下部の防鳥ネット及び点検用踏み台等については、105図「屋上設置キュービクルの基礎」を参照する。



ライナー SUS製
アンカーボルト M12

注意事項

1. 架台はアンカーボルトで基礎に堅固に据付ける。
2. ベース材と基礎との間に高さ調整用のライナー（SUS製）等を使用し水平に固定する。
3. 架台は、C種接地（開放電圧が300Vを超える場合）又はD種接地（開放電圧が300V以下の場合）のアースをとる。
4. 架台の部材は、積雪荷重や風圧力に耐えるものを選定する。